

【事業実績】

ケアしあうミュージアム

1. 「NPO 法人しが盲ろう者友の会」と学生とともに作るワークショップ

①ワークショップ開催に向けた、検討委員（盲ろう者、支援者、大学生）による検討会議と鑑賞会

NPO 法人しが盲ろう者友の会の協力のもと、ワークショップ開催に向けて検討会議を2回（7/24、10/23）、鑑賞会を1回（8/29）実施した。鑑賞会では、大学生がアイマスクしてさわって作品を鑑賞。盲ろう者、支援者と意見交換した。



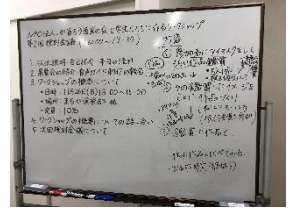
7/23の検討会議



鑑賞会の様子



鑑賞会の様子



10/29の検討会議

②ワークショップの開催

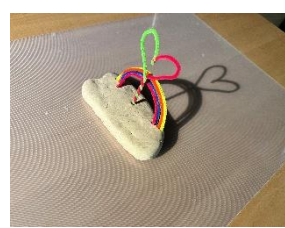
盲ろう者と学生を講師として、一般の参加者4名とワークショップを開催した（11/26）。作品を黒いシートで覆い、見えない状態でさわって鑑賞。後半はさわった作品の印象を基に粘土とモールで作品を制作して感想を共有。黒いシートを外して、再度作品を鑑賞した。



作品鑑賞の様子



粘土とモールによる制作



参加者の作品



黒布をはずして鑑賞

③参加者の声

- ・いろいろな人の意見を聞くことができ、芸術に対する見方が変わった。（盲ろう者）
- ・一方的に盲ろう者の思いを知ってもらうことが多かったが、大学生が入ったことで交流が生まれ、双方に気づきがあった。（支援者）
- ・目で見るのが主流となる写真作品を制作しているが、盲ろう者にどう伝えるか、考えるきっかけとなった。（大学生）
- ・みんなが見えない状態で鑑賞して、想像することが楽しかった。（ワークショップ参加者）

2. 「サンタナ学園」に通う子どもたちが滋賀の文化を伝えるアートブック制作

①ワークショップの実施

サンタナ学園の子どもたちが自ら取材・撮影してアートブック制作にあたり、アーティスト、デザイナー、編集者を講師として本ができるまでの工程を伝えるワークショップを行った。（6/19、8/28）



サンタナ学園の外観



制作を伝える金仁淑氏



デザイン・編集のワークショップ



②サンタナ学園の子どもたちによる取材および撮影

滋賀県のアートスポットをサンタナ学園の子どもたちが訪れ、インタビューや撮影を行い、参加しなかった子どもたちに向けて発表する場を持った。（8/29 豊郷小学校旧校舍群、8/30 愛荘町立愛知川びんてまりの館、9/23 沖島、9/24 谷寛窯、9/25 宮川印刷株式会社、10/6 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール、10/7 滋賀県立美術館、10/9 ポーダレス・アートミュージアムNO-MA）



豊郷小学校旧校舍群



沖島に向かう定期船の中



谷寛窯で当主の話聞く



宮川印刷で印刷の工程を学習

③アートブックの制作・配布

子どもたちの直筆のメッセージや撮影した写真などをアートブックとして編集し、制作した。600部発行し、全国の図書館、美術館などに配布した。

【アートブックの所蔵先がわかるWEBサイト】

<https://no-maarchive.com/publication/2965/>



アートブック表紙

④参加した子どもたちの声

- ・このプロジェクトが大好きという気持ちは絶対に変わらない。
- ・人生に残る素晴らしい経験ができた。アートについて、いろいろ学べた。

3. 沖島での祭事・文化についてのインタビューとブックレット作成

①インタビューの実施

7/12 検討会議を行い、インタビュー対象者を決定。少子高齢化、人口減少など課題を抱える沖島に関わる人たちのつながりを掘り下げるアプローチとして、地域住民、漁協関係者、離島振興推進協議会、老人クラブ、元学生などを対象に、大学助教をインタビュアーとして、6組17名のインタビューを行った。(7/30、8/21、10/11、10/29)



カフェ江の精でのインタビュー



離島振興協議会の皆さん



沖島民泊湖心でのインタビュー



おきしマルシェのにぎわい

②ブックレットの作成

田口氏がインタビューをKJ法を用いて分析。「沖島つながりマップ」としてまとめ、インタビュー集と併せてブックレットを1,000部制作。沖島およびNO-MA近隣施設などに配布。

インタビュー内容の分析を小冊子にまとめ、発信した。

【NO-MAホームページにてブックレットをダウンロードできる記事を公開】

https://no-maarchive.com/online_article/3017/



ブックレットの表紙

③参加者の声

- ・島の未来を担ってくださったお父さんとの対話を形として次世代に残せたことにも、大きな意味があると感じている。
- ・各々ができるときにできることを。動けないときに、このような形にさせていただいてうれしく思います。

4. 「ケアしあうミュージアム」WEBフォーラムの実施

①トークセッションの実施

プロジェクトごとに、参画した関係者によるトークセッションを行い、WEB公開形式により広く共有した。

- (1) 「NPO法人しが盲ろう者友の会と学生によるワークショップ」を振り返る(2024年2月2日)
- (2) ゆるやかなつながりが守るもの～沖島と人のかかわりから考える～(2月4日)
- (3) サンタナ学園とのアートプロジェクト with 金仁淑 アートブック「扉の向こう 私とあなた、滋賀とアート」はどのように制作されたのか(2月5日)



(1)の様子



(2)の様子



(3)の様子

②中核館ウェブサイトでの映像公開

フォーラムの内容を中核館であるボーダレス・アートミュージアムNO-MAのYouTubeチャンネルに公開し、延べ345回視聴された。なお、①(3)のみポルトガル語字幕を入れた動画を制作し公開した。

【フォーラム映像を視聴できるWEBサイト】

- ①(1) <https://youtu.be/4okXeP4cRQk>
- ①(2) <https://youtu.be/ju8V3BiwzI4>
- ①(3) <https://youtu.be/TQs5JQpuw9U>
- ①(3) ポルトガル語字幕入り <https://youtu.be/MaV0iO6mMGU>